

送粉昆虫キオビオオハリナシバチの大量増殖・利用技術の開発

1 中核機関・研究総括者
島根大学 宮永 龍一

2 研究期間
2004～2007年度（3年間）

3 研究目的

近年急増している施設栽培において安定した生産を維持するには、閉鎖的環境に適応した送粉昆虫の導入が不可欠である。現在、生産現場では刺傷性がなく安全でかつ生態系への攪乱の怖れがない送粉昆虫が求められている。このため、これらの問題解決を可能にする熱帯産のキオビオオハリナシバチのコロニー生産システム、施設作物への利用技術の開発をする。

4 研究内容及び実施体制

- ① コロニー管理・増殖技術の開発（島根大学）
コロニーの増殖にとって最適な管理・増殖技術を開発する。
- ② コロニー生産システムの開発（石原産業株式会社）
コロニーの最適な管理・増殖技術の成果に基づき、小規模な生産システムを試作し、大量生産システムの開発を行う。
- ③ 施設作物への利用技術の開発（岡山県農業総合センター、鳥取県園芸試験場）
試験栽培ハウスにおいてコロニーを放飼し、実用的な受粉効果を得るために必要な単位面積あたりのコロニーサイズおよび効果的な利用法を確立する。

5 目標とする成果

キオビオオハリナシバチのコロニー生産システムおよび施設作物への利用技術が確立される。その結果、市場性の高い施設作物での農作業の省力化だけでなく農業人口の高齢化にも対応できる安全性の高い新技術としての利用が期待できる。